

高齢化が進む地域の災害対応力を高めるため、県内の大学や高校との連携を深める「防災・減災ミーティング」が23日、神奈川大学横浜キャンパス（横浜市神奈川区）で開かれた。学生を主体とした復興ボランティアや消防団活動などの実践的な取り組みを報告。若い世代の力を、備えの充実や被災後の支援に生かしていくための方策や課題を共有した。（渡辺 渉）

神大でミーティング



学生の防災支援活動を
発表した桐蔭横浜大学
（同市青葉区）は、東日
本大震災以降、キャンパ
スのある同区内で他の大
学と連携し、学生が消防
団へ入団するよう促す活
動を展開している。団員
不足の解消と地域貢献が
目的だが、佐藤栄一客員
教授は「現在は入団待機
中の学生も多い」と成果

活動の取り組み報告

を強調する一方、安全管
理と活動の継続を課題に
挙げた。
災害に強い地域と大学
の新たな特色づくりに向
け、防災サークルの設立
を目指していると発表し
たのは、神奈川大4年の
越智徳有さん（24）。「学
生は時間にゆとりがあ
り、技術や知識を学べる。
災害時の初動対応におけ
る人手不足の弱点を克服
できる」と利点と狙いを
強調した。
県内の高校生や大学生
によるグループ「災害ヒ
ーロープロジェクト」の
高校2年、高橋虎太郎さ

ん（17）は「物資の受け取
りや率先避難などの役割
を日頃から与えてくれれ
ば、高校生も意識が高ま
る」と提案した。
この日は、大学を避難
所などの拠点として活用
する仕組みについても話
し合われた。日本災害復
興学会の会長を務める大
矢根淳・専修大教授は
「ハードルもあるので、
大学ができることを一つ
ずつ積み上げ、行政との
協定などに盛り込んで
いくことが必要」とし
た。
ミーティングは、県内
の防災関係団体に連携の

学生の力 防災支援に

場を提供している「かな
がわ人と智をつなぐ防災
・減災ネットワーク」代
表・荻本孝久神奈川大教
授が主催した。



災害時や日頃の備えに学生の力をどう生かすか
について意見を交えたミーティング
＝神奈川大学横浜キャンパス